

備えよ常に!

2009年4月

ニューヨーク市の
ハドソン川に
緊急着水した
USエアウェイ
ズ1549便から
避難している
乗客乗員



2009年1月15日、ニューヨーク市からノースカロライナのシャーロットに向かうUSエアウェイズ1549便の乗客乗員は通常通りの飛行を期待していた。しかし、離陸2分後に飛行機は鳥の一群に衝突し、両エンジンの出力を失った。飛行機は低高度(約3000フィート、1000メートル)にあり、出力を失い、大きな市街地の上空にあった。乗員、乗客に対してだけでなく、数万の地上の人々に対しても危険があった。それは乗員(機長Chesley B. Sullenberger, チーフパーサーJeffrey B. Skiles, と客室乗務員 Sheila Dail, Doreen Welsh, and Donna Dent)が多年の訓練や経験をから学んだ全てを、しかも直ちに、実践に移す時であった。パイロットたちはエンジンを再起動することも出来ないし、どの空港へも滑空するに十分な高度もないと判断した。彼らの唯一の選択はハドソン川に着水することであった。パイロット達はその準備を行い飛行機を飛ばしている一方で客室乗務員は乗客が安全に着水できるよう準備をした。かれらは車輪を引っ込めたままにし、着水の場合に浸水の速度を遅くするため機体の下のバルブや開口部を閉める不時着ボタンを使った。パイロットたちはミッドマンハットン西のハドソン川に着水することに成功した。150人の乗客と5人の乗員全員は無事に飛行機から避難し、近くにいた民間や救助の舟によって救助された。飛行機が鳥に当たってから川に着水するまでの時間はおよそ6分であった。乗務員全員は、後ほど、英雄的で他に例を見ない飛行を成し遂げたということでthe Master's Medal of the Guild of Air Pilots and Air Navigatorsを授与された。

あなたにできること?

現代の航空機と同じように、製造プロセスは複雑な機械である。たいていの時間は非常にうまく動いているが、何時、何が悪い方に動き緊急事態に対応しなければならなくなるか、決してわからない。あなたは、自分のプラントを理解し、プラントがどう動くか、自分たちのアクションにどう反応するか、緊急時に何をすべきか、ということを理解し、常に備えておかねばならない。そうすれば、あなた方は自分のプラントの危険を理解し、悪くなりそうなことを予想し、いかに対処すべきかを予測することが出来る。

- 真剣に訓練を受けておくこと。例えば、全ての航空会社の飛行は安全喚起のアナウンスで始まる。あなたはそこに注意をはらっているだろうか? 緊急事態が起こることは稀だが、それらはあなたの身に起こりうるので、どう対処するか知っておかなければならない。あなたには何をするかを決めるための時間は多くはないかも知れない。したがって的確に行動するには準備や訓練が極めて重要である。
- 行動を起す前に、何が悪い方に行きそうか、どんな結果が起こりそうか、装置がどう反応するか、何をすべきか、を考えるために少し時間をとること。もしわからなければ管理者の助けを求め、緊急事態に対し、いかに対応するかを確信を持って理解、満足するまでは行動を起ささないこと。
- 緊急事態対応訓練や机上演習に参加すること。そうすればより良い準備ができる。

訓練と予知が緊急事態に役立つ

AIChE © 2009. 不許複製、非営利的な教育目的の複製は奨励する。ただし、再販目的のための複製は、CCPS以外のいかなる者に対しても禁止する。コンタクト先は、ccps_beacon@aiche.org または 646-495-1371